

インターバンクの声（2016年1月25日）

ドル円が週末の海外市場で1月の米雇用統計発表後に付けて以来、徐々に118円後半の水準に戻ってきた。欧米株価、原油価格の上昇、さらに米中長期金利の上昇などを受けて、リスク志向が回復したことが主な要因だろうが、どうも今週はこのままの状態が維持できると予想するほど簡単な週になりそうもない。欧州中央銀行（ECB）理事会を先週済ませたばかりだが、今週は米連邦準備制度理事会（FRB）の公開市場委員会（FOMC）と日銀金融政策決定会合が予定され、さらには欧米の重要指標も相次いで発表される。とりわけ注目されるのは日米の金融政策会合だが、ついに先月利上げに踏み切った米FOMCメンバーの足許の経済への考え方や日銀が追加緩和を実施してくるかどうか大きなポイントだろう。116円前後まで逆戻りもあれば、長いこと居心地が良さそうだった120円台復活もあるかも知れない。まずは、日経平均株価や上海株の週初めの取引がどのように開始されるのかが注目だ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。